

# 日医後期

日本医科大学後期対応  
実戦力向上のための  
アウトプット演習

2月12日(金) ~ 3月3日(水)

**Windom**  
医学部予備校ウインドム

断然ウインドムです！  
日医を目指すなら、  
断然ウインドムです！

## 講座概要

### 日医英語 9時間

国公立と私立医大の中間的な出題ですが、総合的な英語力が求められています。

例年、日医の英語は、長文3題が出題され、記述重視で、私立医系と国公立の問題の中間くらいの形式です。ただ近年、全体の設問数はかなり増え、空所補充が多く、内容的に単に英語の知識があるかどうかだけでなく、思考力も問われるものとなっています。長文の内容は、医療系に限らず、様々な分野に渡り、一般的な英文も出題されています。また、国公立のように記述が多いだけでなく、単語の空所補充が多いのも日医の特徴で、この単語偏重は、特に慈恵、昭和、東医、近畿、愛知などの語彙系問題重視かと同じ傾向にあります。

講習会では、長文での日医の問題は、全般的な英語力プラスアルファが必要となるので、講習会では、総合的な解答力が身に付けられるようトレーニングをしていきます。

単語は、書かせる問題もあるので、綴りをきちんと覚えるようにしておき、またアクセント・発音も問われるので、使用しているテキストの英文でアクセントの位置が不確かなものには、必ず第一アクセントの位置に印をつけておくようにしておきましょう。

### 日医数学 9時間

問題攻略のキーは「読解力&思考力&計算力」です。

日医は、圧倒的に数（極限、微分、積分）の出題が目立ちます。これらは毎年出題され、4題中2題ないしは3題、あるいは3題中2題程度が出題されています。それも、ベクトル、

空間座標、確率、三角関数、2次曲線との融合させた形での出題です。もう一つは、軌跡、領域、通過領域の問題が06年、07年、08年、10年、11年、15年、16年で出題されています。また、単独で出題されている分野は小問のとき、「数列」「ベクトル」「整数」「3次方程式」「方程式」が出題されています。

難易度は、17年は前期・後期共に1 2 3 4は基本～標準レベルの問題ですが、5がハイグレードな問題が出題されています。

講習会では、数（極限、微分、積分）との融合問題に対応するため、日医だけの過去問にとらわれず、国公立の二次試験の問題を参考に、高度な思考力と表現力を育成。面倒な計算も要求されるので、正確で迅速な計算力も鍛え直します。また、確率、ベクトル、数列、2次曲線、軌跡、領域、通過領域の分野もしっかり学習します。これでプラス15点は確実です。

### 日医化学 9時間

あらゆる重要ポイントを整理し、理解を深めて日医化学を制する！

日医の化学は、かつては多くが標準的でしたが、近年、難易度の高い設問も、含まれるようになりまし。しかし、これらの出題は合格者の正解率も低く、また解答にも多くの時間を要するなど、実質的には否否にはさほど影響がないのが実状です。また、難易度の高い設問がある場合には逆に極めて基本的な設問も多く含まれている傾向がありますので、やはり合格するには、一見すると誰もが得点できるような基本標準的設問を、ミスなく正確に解答し、確実に得点を挙げるのが一番だと感じます。

**理論対策** 反応速度や化学平衡の設問が多く出題されます。また、理論分野の出題は、受験生全般が苦手とするものから、標準レベルの設問を確実にし、その後で難度の高い設問にどれだけ時間を掛けられるかがポイントとなります。

**無機対策** 基本的・標準的設問が多く、陽イオンの系統分離、実験室内での気体の発生法などは確実に得点したい分野です。過去には、オストワルト法やソルベー法などの無機工業などが出題されていますが、知識としては標準レベルのもので、確実に得点しましょう。ただし、11年には、多座配位のキレート錯体の出題もあり、錯イオンは気を付けましょう。

**有機対策** 従来は脂肪族・芳香族の構造決定問題など、他学部と違いがない出題が大方ですが、近年、タンパク質の一次構造など、天然有機化合物に関する設問が増えました。また以前は比較的合成高分子の設問が多かった大学です。脂肪族・芳香族の構造決定問題はより短時間で解答する練習が欠かせませんが、天然高分子・合成高分子の分野もしっかり確認しておきましょう。講習会では、理論分野では、速度と平衡、気体と蒸発と溶解、電離平衡、電気化学を、有機分野では構造決定の他、天然高分子・合成高分子の分野を手厚く指導します。

### 日生物 9時間

実戦問題による、高密度な生物を教授します！

日生物ですが、要求される知識レベルは、決して低いとはいえ、教科書と標準的な問題集に記されている用語や現象を、ほぼ完璧に覚える必要があります。例えば、「放出ホルモン」「肝門脈」「プロモーター」「オペレーター」「調節遺伝子」「誘導物質」「オペロン」「原体腔」「トロコフォア幼生」「分子進化」「遺伝的浮動」などの用語を要求しています。これらの用語を「当然説明できる」というレベルになる必要があり、「なんとなくわかる」「聞いたことがある」では高得点は望めません。

他の特徴では、

同じ分野の出題は、比較的少ないが、小問ベースでは繰り返し同じことを問う問題が出てくる。これは各分野の「これはわかっているけど欲しい」という重要事項を問うからである。遺伝子と進化の出題頻度が高い。また、私大医学部としては生態学の出題頻度が高い。近年は、遺伝子分野の実験考察問題が必ず出題され難度が高い。

計算問題は、ほとんどが定番である。

標準的な用語と現象の理解を完璧にする必要がある。例えば、高校教科書記載の実験は全て覚える、高校教科書の索引に記されている用語を全て覚える。

### 日医物理 9時間

どんな問題でも対応できる物理力を身につける！

日医には、深みのある問題が多く難問も含まれています。これらの問題を60分で解くのはなかなか困難ですが、国公立医大に負けまいとする意気込みが感じられる内容で、非常にやりがいのある試験内容です。昨年度より、入試形態が前期後期に分かれましたが、基本的に試験内容は、これまでと同様と考えていいかと思います。日医の物理は、処理系の問題より、思考系の問題が主体となっているので、思考能力が別に必要とされます。そういった点で一般的な問題集を丹念にこなしていくだけでなく、日頃から難しい問題を深く考える習慣が必要です。合格の基準として、日医は国立志望の受験生が多く受けるので、必然的に高得点が必要となってくるものと思われます。講習会では、物理の原理・法則・公式を根源的に理解し、思考力と応用力を高め、公式の丸暗記では対応できない問題にも、果敢に立ち向かえるような実力を短期間で育成します。単なる解法の丸暗記ではなく「考えることを大事にして問題を解いていきます！

